## 【授業科目】母子支援看護学特論Ⅰ（基礎となる理論）（母子共通科目）Advanced Child and Mother Health Nursing Ⅰ

| 担　当　教　員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | オフィスアワー |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 日比 千恵、別所 史子、増田 由美 | １年次<br>前　期 | 選　択 | ２ | ３０ | 講　義 | 巻末<br>掲載 |

| | |
|---|---|
| 授業概要<br>（内容と進め方）<br>及び<br>課題に対する<br>ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法 | 母子を支援するにあたり、まず乳幼児を養育する親（母親・父親）になれるよう思春期からの親性発達への支援が重要である。特に妊娠・分娩・産褥の親役割取得に向けてのケアが求められている。また子ども側から支援の在り方を考え、子どもの成長発達に対する理論や病気を持つ子どもとその両親たちへの心理的・身体的健康問題への支援を行うことは重要である。<br>　本授業ではこれらの母子支援に必要な基盤となる理論を学習する。授業は実務家教員（日比、別所、増田）が進める。<br><br>課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／課題のプレゼンテーション実施に対してコメントする。 |
| 授業の<br>位置づけ | 本大学院のディプロマ・ポリシー①、③の達成に寄与している。 |
| 到達目標<br>（履修者が到達<br>すべき目標） | ①現代の母子を取り巻く社会状況や文化的背景について考察できる。<br>②母性の親性発達に関する理論、絆理論、家族移行期の理論に関する研究知見を述べることができる。<br>③子の健康や家族の発達に関する理論・概念に関する研究知見を述べることができる。 |
| 時間外学習に必要な<br>内容・時間 | 配布資料や講義で紹介した参考文献は通読し、予習・復習をして授業内容の理解を深め、積極的に意見交換を行えるようにする。（各２時間）<br>課題に関連した文献の検索・講読を行い、プレゼンテーションやレポート作成にいかす。（各２時間）<br>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／１回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。 |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回　現代の母子を取り巻く社会状況、文化的背景　1（母性） | 日比 |
| | 第２回　現代の母子を取り巻く社会状況、文化的背景　2（小児） | 別所 |
| | 第３回　子どもや家族の発達に影響を及ぼす社会・文化的動向（１）：国内外における子ども観の変遷と子どもの人権 | 別所、増田 |
| | 第４回　子どもや家族の発達に影響を及ぼす社会・文化的動向（２）：国内外における子ども観の変遷と子どもの人権　プレゼンテーション | 別所、増田 |
| | 第５回　子どもや家族の発達に影響を及ぼす社会・文化的動向（１）：リプロダクティブ・ヘルス/ライツ | 日比 |
| | 第６回　子どもや家族の発達に影響を及ぼす社会・文化的動向（２）：リプロダクティブ・ヘルス/ライツ　プレゼンテーション | 日比 |
| | 第７回～10回　母子支援に必要な理論：ピアジェ:認知発達理論、バーナード:親子相互作用モデル<br>ピアジェ認知発達理論、バーナード親子相互作用モデルを基盤とした研究論文の講読、プレゼンテーション | 別所、増田 |
| | 第11回～14回　母子支援に必要な理論：ルービン、マーサー | 日比 |
| | 第15回　今後の自身の研究における理論の応用 | 日比、別所、増田 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 評価方法<br>評価基準 | 授業参加態度25%、プレゼンテーション25%、レポート50%とし、総合的に評価する。 | | |
| 教科書 | 講義の中で適宜紹介する。 | 参考書等 | 講義の中で適宜紹介する。 |